

出演者のご紹介

佐田山 千恵 (ソプラノ)

鳥取県出身。ミラノ及びロンドンで研鑽を積み、ミラノ市立音楽院のディプロマを最高位で取得。オランダ音楽祭などに出演。イギリス・ウィンザー城にて、チャールズ皇太子の前で歌い讃辞を受ける。PMF2010ではファビオ・ルイーシ指揮でオペラ『ラ・ボエーム』ミミ役に抜擢、オペラデビューを果たす。

『蝶々夫人』・『椿姫』タイトルロール、『カルメン』ミカエラ役、『こうもり』ロザリンデ役、『フィガロの結婚』伯爵夫人役など主要役で多数出演。東京フィルハーモニー交響楽団や大阪交響楽団との共演、韓国国営放送KBSに多数ソロ出演、出身地の鳥取県米子市にて毎年コンサートを企画し、国内外で幅広く活動中。「琴線に触れる声」と言われ音楽誌やメディアにて絶賛を受けている。とっとりふるさと大使に就任。日本オペラ協会会員、藤原歌劇団団員。



澤崎 一了 (テノール)

国立音楽大学卒業。第53回日伊声楽コンクール第2位及び五十嵐喜芳賞受賞。第2回V.テッラノーヴァ国際声楽コンクール第1位。藤原歌劇団公演にて、2016年「トスカ」のスポレッタでデビュー。18年「道化師」のペッペ、19年「ラ・トラヴィアータ」のアルフレード、20年「カルメン」のドン・ホセ、21年「蝶々夫人」ピンカートン、「清教徒」アルトゥーロ役でいずれも高い評価を得た。15年ビントでのトラエタ・オペラフェスティバル「蝶々夫人」ピンカートンにてイタリアデビュー。その他、宗教曲や「第九」等ソリスト、天皇陛下御即位二十年奉祝曲「太陽の光」を歌うなど、多岐に渡り活躍をしている新進テノール。

藤原歌劇団団員。立教池袋中学・高等学校講師。神奈川県出身。



椿 義治 (サクソフォン)

神奈川県横浜市出身。15歳よりサクソフォンを始める。エリザベト音楽大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。卒業演奏会、日本サクソフォン協会「新人演奏会」他多数出演。これまでにサクソフォンを宮田麻美、宗貞啓二の各氏に、室内楽を宗貞啓二、大森義基の各氏に師事。現在、ソロ、室内楽を中心に幅広く演奏活動を行うほか、サクソフォン・吹奏楽の指導や、コンクール審査員なども行う。ギタリスト大坪純平氏とのデュオ「Travessia」や、極小編成吹奏楽団「シュピール室内合奏団」アルトサクソフォン奏者としても活躍している。2017年シュピール室内合奏団1st アルバム「SPIEL STAR SPUR!」をリリース。横浜市立戸塚高等学校音楽コース非常勤講師。



大園 麻衣子 (ピアノ)

千葉県出身。国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。在学中オペラ研究会に所属しオペラ歌手と作品に魅了される。以来、声楽家との共演ピアニスト、コレパティートル(オペラ歌手のコーチ)として、全国で活発に演奏活動を行っている。2015年4月ビント市のトラエッタ劇場、バルレッタ市のクルチ劇場公演「蝶々夫人」にてオーケストラの一員として、イタリアデビュー。現在、国立音楽大学院オペラ科ピアニスト。藤原歌劇団正団員。さいたま市見沼区在住。

